出力日：令和07年03月18日

キーコード：397

# 事務事業名 ごみ減量対策事業

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 施　策： | 23 | 循環型・低炭素・自然共生社会の推進 | 財務コード | 01040202-02-326 |
| 基本事業： | 01 | ごみ減量化の推進 | 担当部 | 環境経済部 |
| 基本事業の成果指標 | ①一人1日当たりのごみの排出量<br>②ごみの資源化率 | | 担当課 | 環境課 |
| | | | 担当係 | 環境保全・廃棄物 |

事務事業が貢献すべき成果

| 計画年度 | ～ | 新規・継続 | 継続 | 会計区分 | | 実施計画 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

**１．対象（誰、何に対して事業を行うのか）**

市民及び事業者

**２．手段（事務事業の内容、やり方、手順）**

■ダンボールコンポスト講座の開催
■多量排出事業所に対するごみ減量の指導
■ごみの減量、資源化の啓発（広報、団体からの依頼による出前講座）
■一般廃棄物再生利用業の指定

**３．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）**

市民、事業者がごみの排出抑制及び減量に努める。

**４．成果（簡易評価は未記入）**

| 成果指標名称 | 単位 | 04年度 実績 | 05年度 実績 | 06年度 当初 | 07年度 要求 | 08年度 計画 | 09年度 計画 | 目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| マイバックを利用する市民の割合 | % | 69.2 | 67.3 | 70 | 80 | | | 80 |
| マイバック持参率を達成した事業所の割合 | % | 71.4 | 28.6 | 100 | 100 | | | 100 |

**５．コスト**

| | | 単位 | 04年度 実績 | 05年度 実績 | 06年度 当初 | 07年度 要求 | 08年度 計画 | 09年度 計画 | 目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 計 | 千円 | 30 | 26 | 123 | 9,380 | | | |
| | 国 | 千円 | 0 | | 0 | 0 | | | |
| | 県 | 千円 | 0 | | 0 | 0 | | | |
| | 地方債 | 千円 | 0 | | 0 | 0 | | | |
| | その他 | 千円 | 30 | 26 | 123 | 9,380 | | | |
| | 一般 | 千円 | 0 | | 0 | 0 | | | |
| 正職員人工数 | | 人工 | 0.7 | 0.7 | | | | | |
| 正職員人件費 | | 千円 | 5,410 | 5,471 | | | | | |
| トータルコスト(事業費＋正職員人件費) | | 千円 | 5,440 | 5,497 | 123 | 9,380 | | | |

**６．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）**

○あがっている
○どちらかといえばあがっている
●あがっていない（停滞・低下）

マイバックを利用する市民の割合は昨年度から1.9%下がり、67.3%でした。マイバック持参率については、事業所ごとに達成率の引上げを行っているため、達成した事業所の割合は28.6%と低下しています。

**７．評価及びコメント（簡易評価は未記入）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 対象動向 | 維持 | 類似事業 | なし |
| 手段効率化余地 | なし | コスト削減余地 | なし |
| 公的関与 | 妥当性がある | 受益者負担 | 余地なし |
| 上位貢献度 | 影響度は中 | 業務推進課題 | なし |
| 成果向上余地 | 中程度 | | |

**８．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）**

■改善方向性　●維持　○見直し　○廃止　○事業終了

**改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持／事業終了の場合は記入する必要なし）**

**■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）**

平成１８年２月　筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会を設立
平成２０年４月　多量排出事業所の減量計画書の提出を義務づけ
平成３１年３月　レジ袋削減に関する協定を更新
令和　２年７月　レジ袋の有料化

**■備考･特記事項ｏｒ進行管理欄**